



稗 随



拝啓、九度目の我に

先づは轉生の目出度き御事。
生れ變はりし氣分は如何か。

さて漢字は讀みこなせるか。
早々に目を通しておくべし。
一度覚えれば忘れぬ我ならば、すぐに身につくはずなり。

我が務めはこの幻想郷の史と妖怪をつぶさに記すこと。
同封の書物はその手引となるものなり。
阿禮の子として心得ておくべき術を記し置けり。
必ず讀み、この書簡とともに速やかに焼き拂ふべし。

其方が之を見出せし藏は、きはめて大事なる處なり。

轉生を始めし折より幾度も建て直しつつ使ひ續けし作業場にして、
また、如何なる者にも破られぬ要害なり。
かの巫女に命じて結界を張らせしゆゑ妖怪とて容易には近づけぬ。

もし何かあらばこの藏を頼みとすべし。

結びに。

其方は己の選択に嘆慨するやもしれぬ。
我が着手せし事に哀れむことありしやも知れず。
余亦その如くなりし。
然れども追想すれば、その受け入れもまた必要なる修練の一端なりと思う。

今の我は満ち足りたり。

斷じて申し上げん。
嘆きざることあらじ。
この先暗き雲に覆はるることはなきゆゑに。

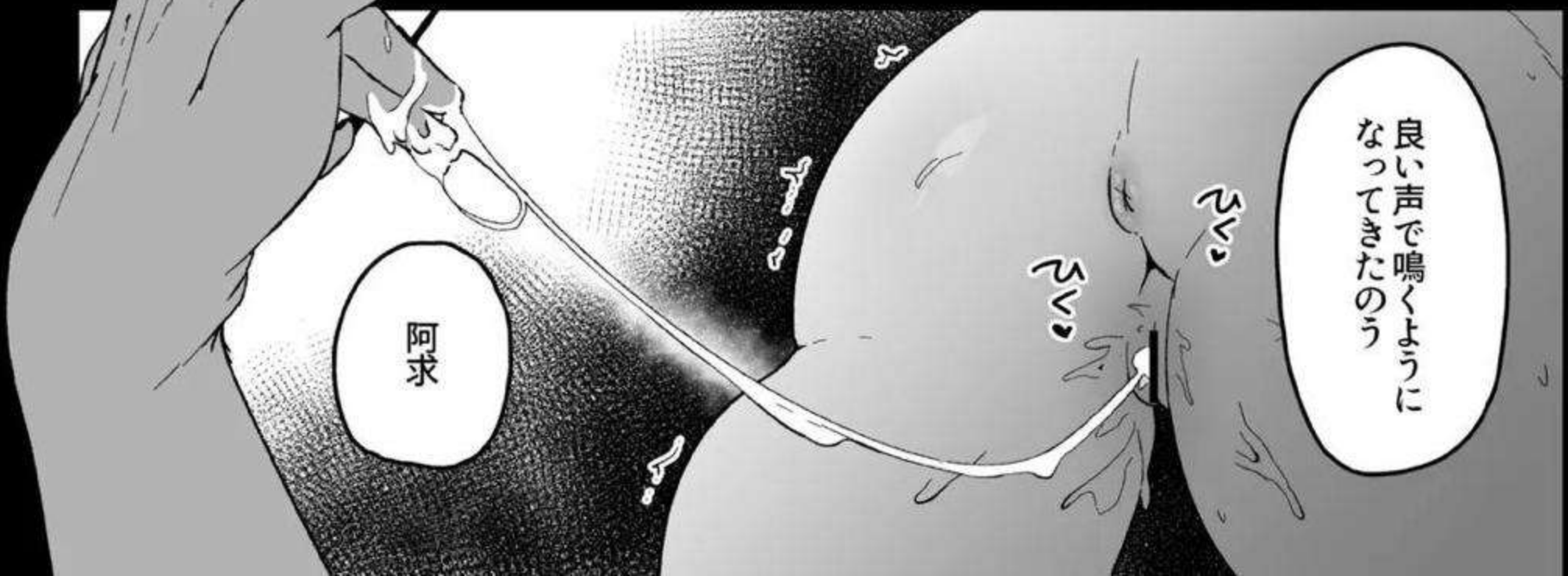
それぢや、素敵なる其方に安全なる幻想郷の日々を。

八度目の其方 稗田阿弥

此れを書きてやうやく阿禮に還れし心地す

神隨





指だけで
何度達した？

それほどに良いか
儂の指が

はー
はー
そんなワケ
……

誰がお前みたいなの
気色悪い手でなんか……！

おお
そうか
そうか

やはり
望みのものでしか
満足できんか♡

やめろっ
だめ……ッ

おい



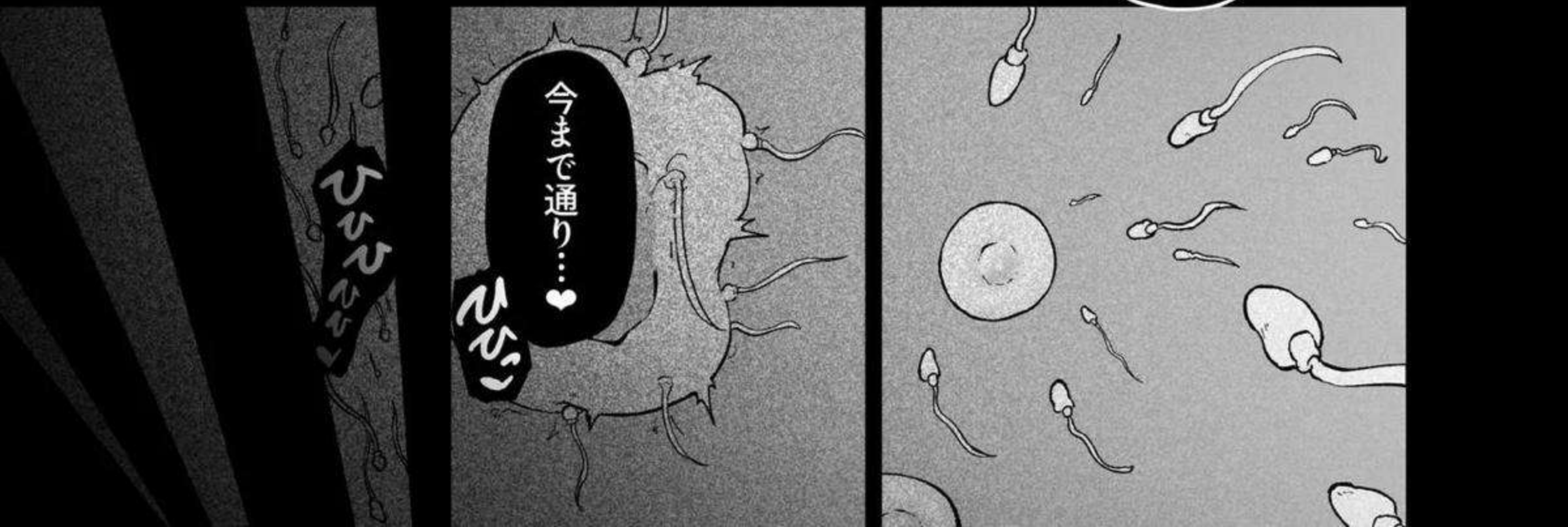
引き抜くたびに
吸い付きおる

それほど焦がれてたか
儂のチンポを♡

最初の具合も
好みだったが

突けば突くほど
我儘になるのう
この膣は♡

種を寄越せと
絡みついて来よる





すみません
そろそろ閉店…



あ



なんだ
あなた
阿求か

なんだも
あなたも
聞き飽きたわよ



は、
今月の
返却分ね

まごどー





あ？

来たよ
腐ったやつが
もうひとり



わりい
阿求

待ったか？



ほ、ほ

阿求お嬢様の為なら
御用聞きも
何のそのじゃて

なにそれ
爺やの真似？

似てるし
ふふっ



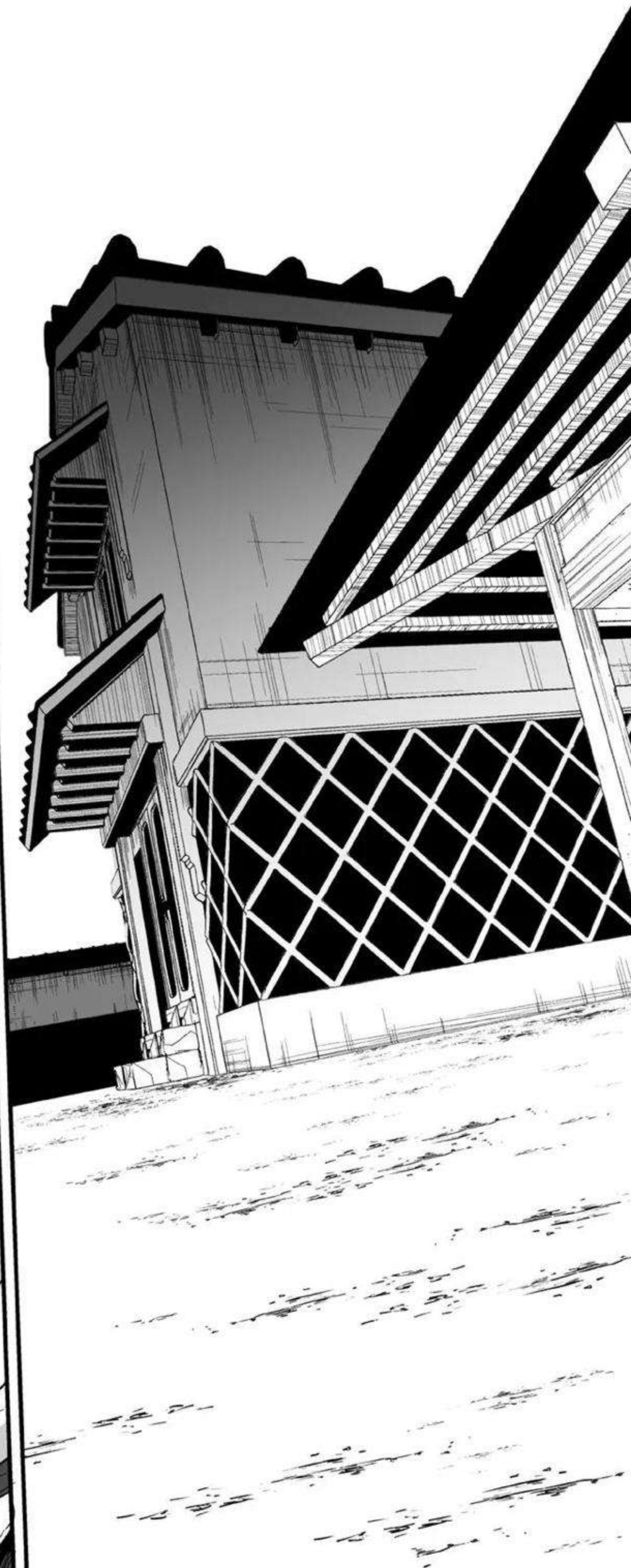
稗田

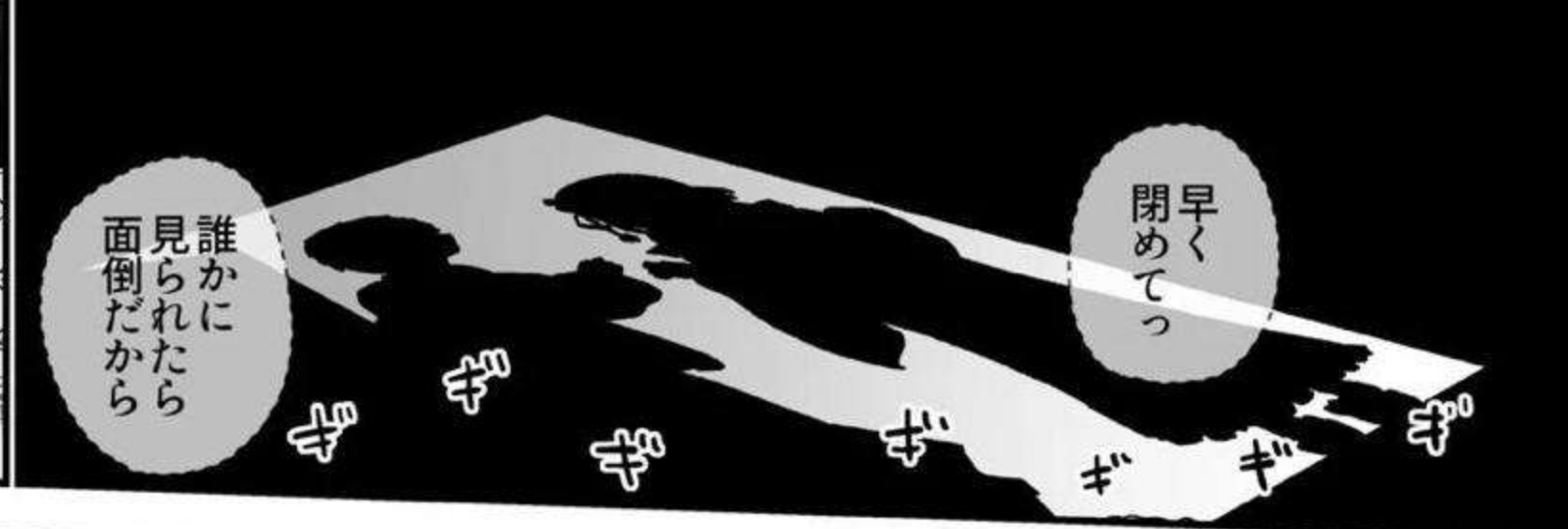
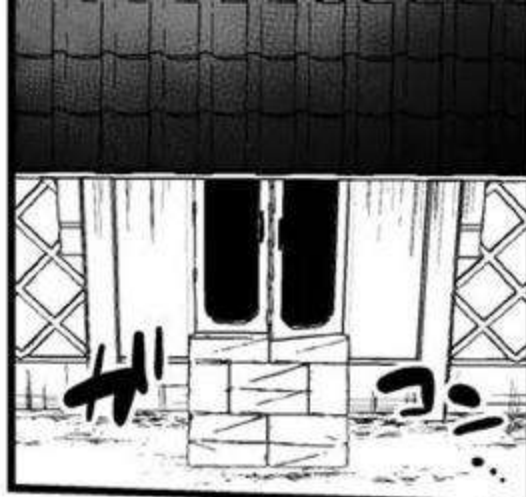


助かるわ
平太

いいって
これくらい

お前じゃ
持てんだろ

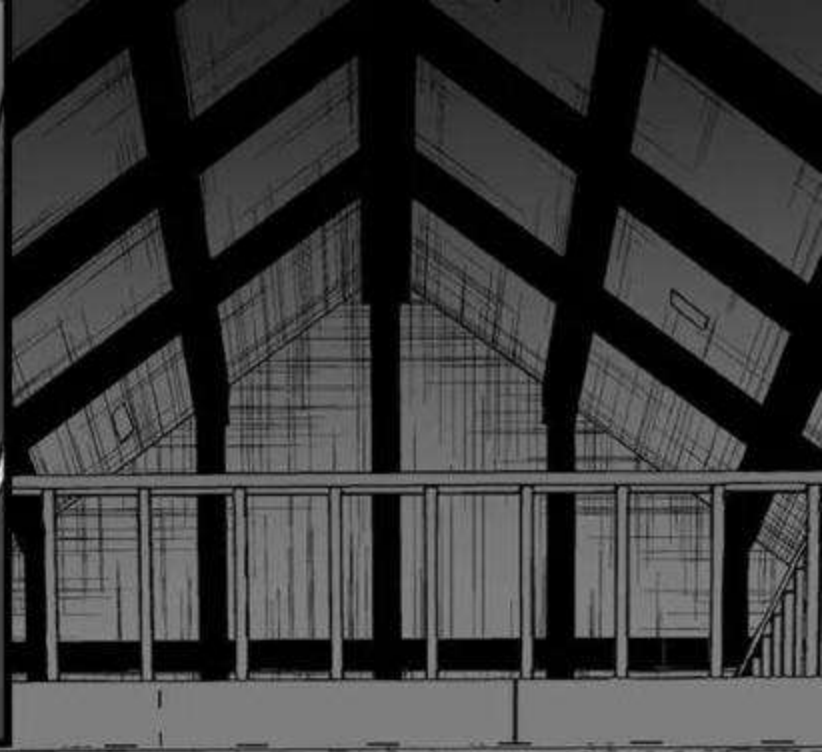














好きなんだよ

阿求



あんまり...
触られると

恥ずかしいから...っ

滅茶苦茶
柔らかい...

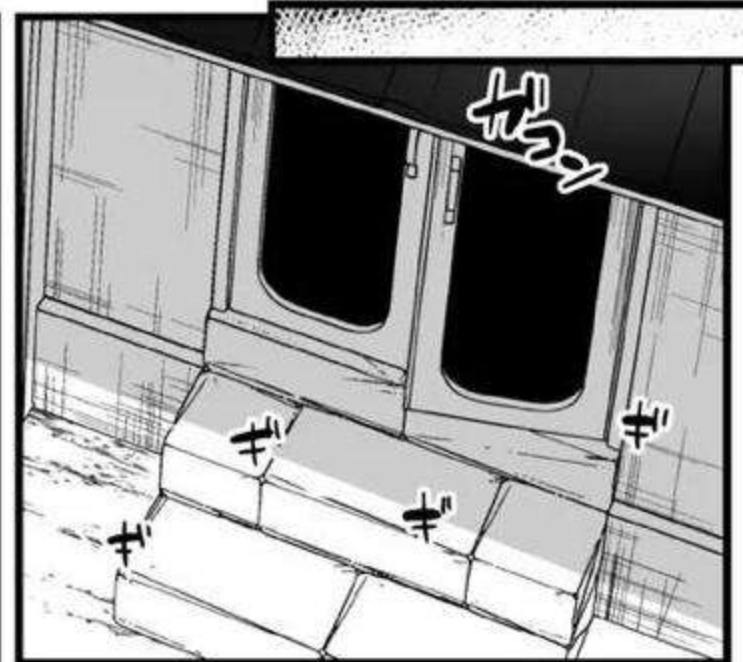
こんなの...
触るなって方が
酷だろ

ばか...っ











痛むか？

ううん
さっきよりかは
大丈夫

でも
なんか変

まだ入ってる
感じる

...



遅かれ
早かれ...

...同じこと
なんだし

そうじゃ
なくてよ

別に
いいじゃない



...
やっちゃったなあ

このまま
子供出来たら
一大事だな

稗田って
名家だろ？

結婚より子供が
先になんて
まずいんじゃないか











少し

散歩しちや
おうかな





ホントに
出来たら
爺やが大変ね
一。歳だから
切れるかも



あれから
月のものは
普通に來たし

すれば必ず
出来るわけじゃないとは
知っていたけど

ホッとしたような…
残念なような…



結局…



でも

すす…

そろそろ
排卵日だし…



…なんてね

明日にでも
しちゃったら
きっと…





時が経てば
いつか必ず
重なる

同じ空におっても
すれ違うばかりだが

偶然でなし
互いに輪を
繰り返す故の必然



儂らと
同じよの



月も日も

見えのうなっても
変わらずそこに在る



そう思わんか



…?

えっと…



のう

阿礼









誰かつ

助けてっ
鬼がいるーっ

声は
届かんよ

お前ここから
誰かを呼び入れるなど
したことないだろ



札が
内と外とを
遮断しておる

気配も

音も

自由に
出入りできる
出来損ないの
結界符よ

同じ札…



さっきから
何を言ってるの!?

お

おっ♡

ぬち…

なんだ
もう濡れとる
じゃないか

一人で耽ったか
可哀そうに♡

この鬼…!

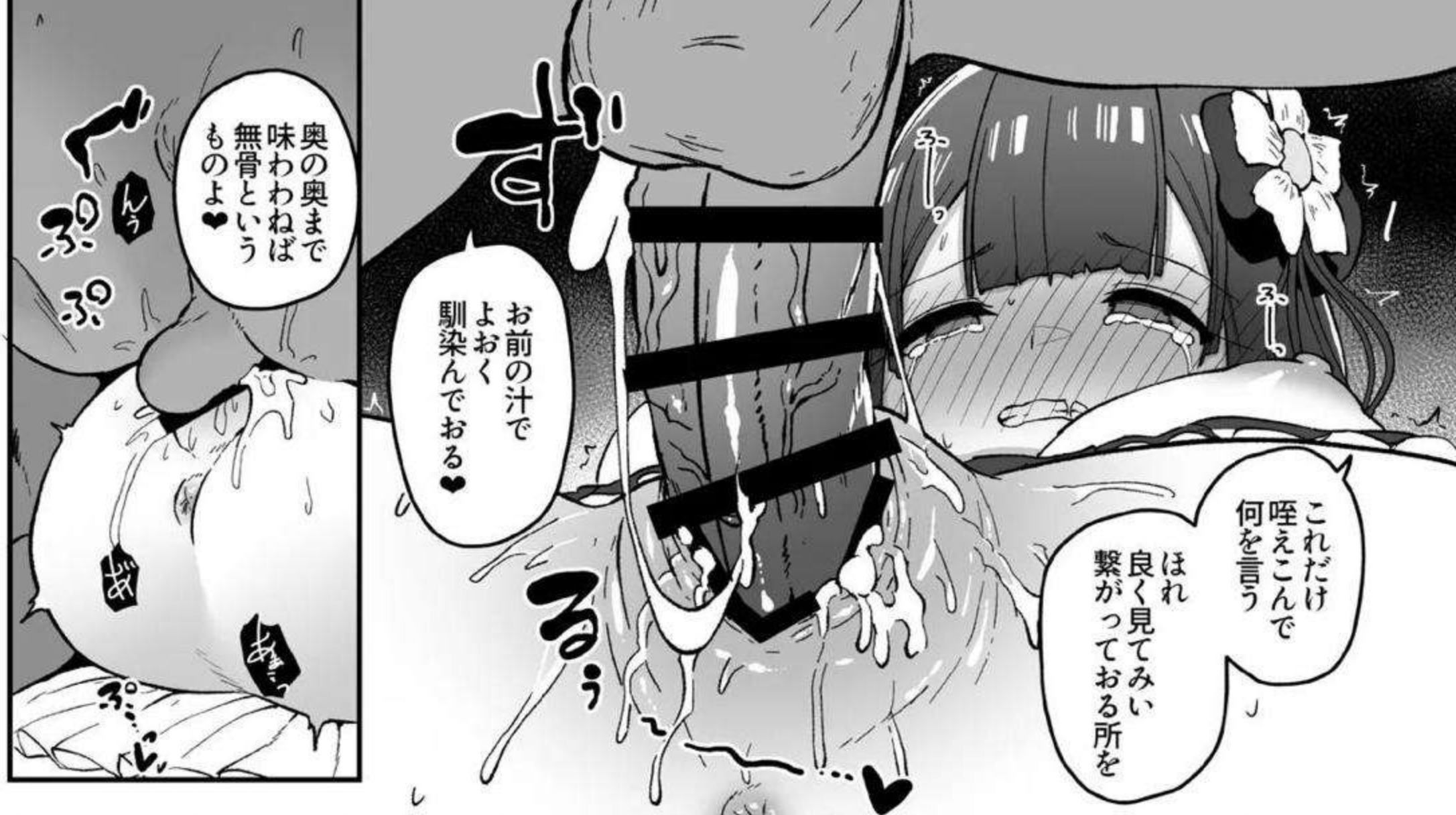
触るなっ
触らないで!

やめろっ

私を喰うのが
目的じゃない!?













何度味わっても
飽きぬわ

生まれ変わる
同じ女を

襲い

穢し

寝取り

堕とし

孕ませる

狂つとるよなあ〜

百年越しの
繁殖♥

儂の種♥

おう♥
いいぞ
上がってきた

たっぷり注いで
やるからの♥

やだ
くちくち
無さ〜!

ヤッ
嫌!!







神隨



なんじゃ平太
敷居を跨ぐな

細かいこと言うなよ
爺さん

阿求は
今日も蔵なのか？

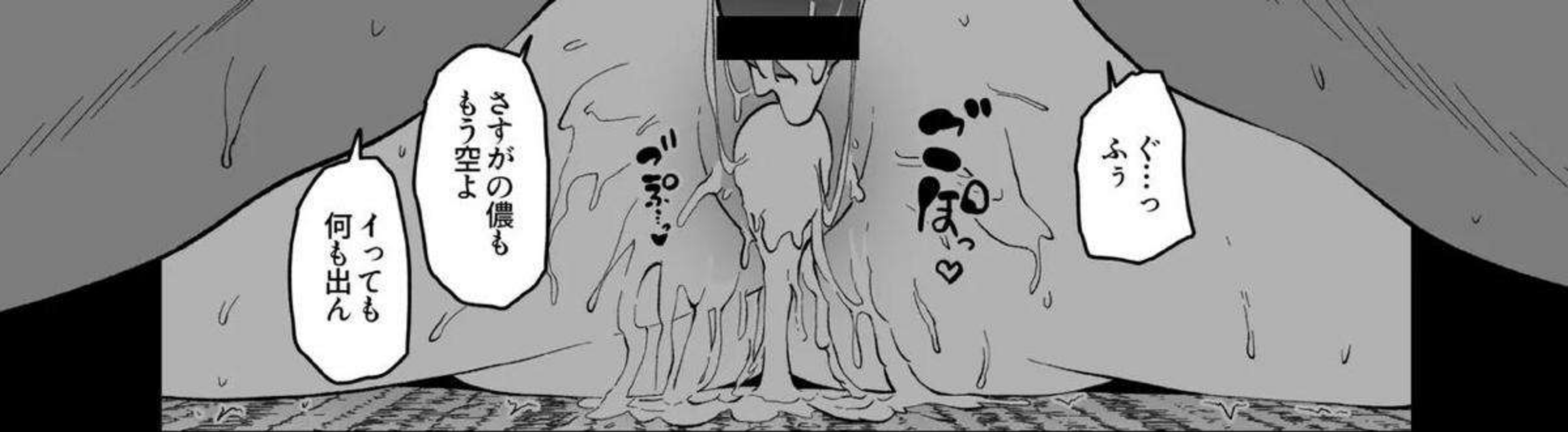
ここ数日は
食事もあり
摂られとらん

幻想郷縁記で
忙しいというよりは…



お嬢様も
思うところが
あろうな…

…あと十余年



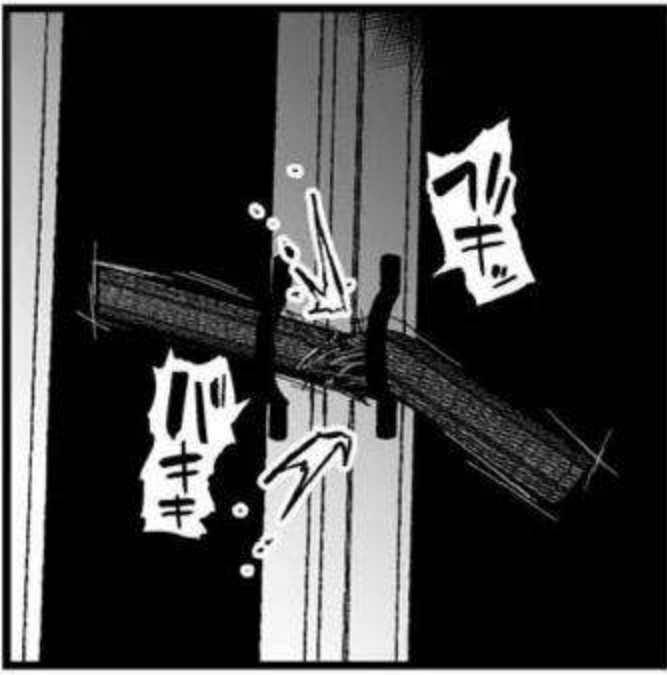
















知ること
見ること
綴ること

スズメ

何度死のうとも

いやはや
一人の女子が背負うには
大層な重荷じゃのうてか



ぐ

ぐ



だからお前が
裁くか?

まさか
役目が違う

阿礼には
もっと重要な
役目があるだろう



手前勝手な理由押し付けして
正当化してるつもり?

お前の慰みなんて
必要ない

記憶する
価値もない……っ



僕は前を
案じておるのよ

片時も何も忘れられん
お前の頭を

慰みによって
空にしてやれるなら
男冥加というもの



ひ

ひ

その割にしかと
覚えておる



本気で儂を殺そうと
思うならこんな
ちやちな獲物に頼らず
退治屋を使えば良い



この拍子で
どう責められたか

身体はとうに
思い出しておるようだが



お前が人質を取るなんて
卑怯な真似するから……！





幻想郷における
一番の大罪は
人間が妖怪になる事だ

退治屋の霊夢さんは
直感に秀でている

数多の異変をそれだけで
解決してきたほどだ

稗田に鬼が出たと
その関連で勘付く
可能性は軽視できない

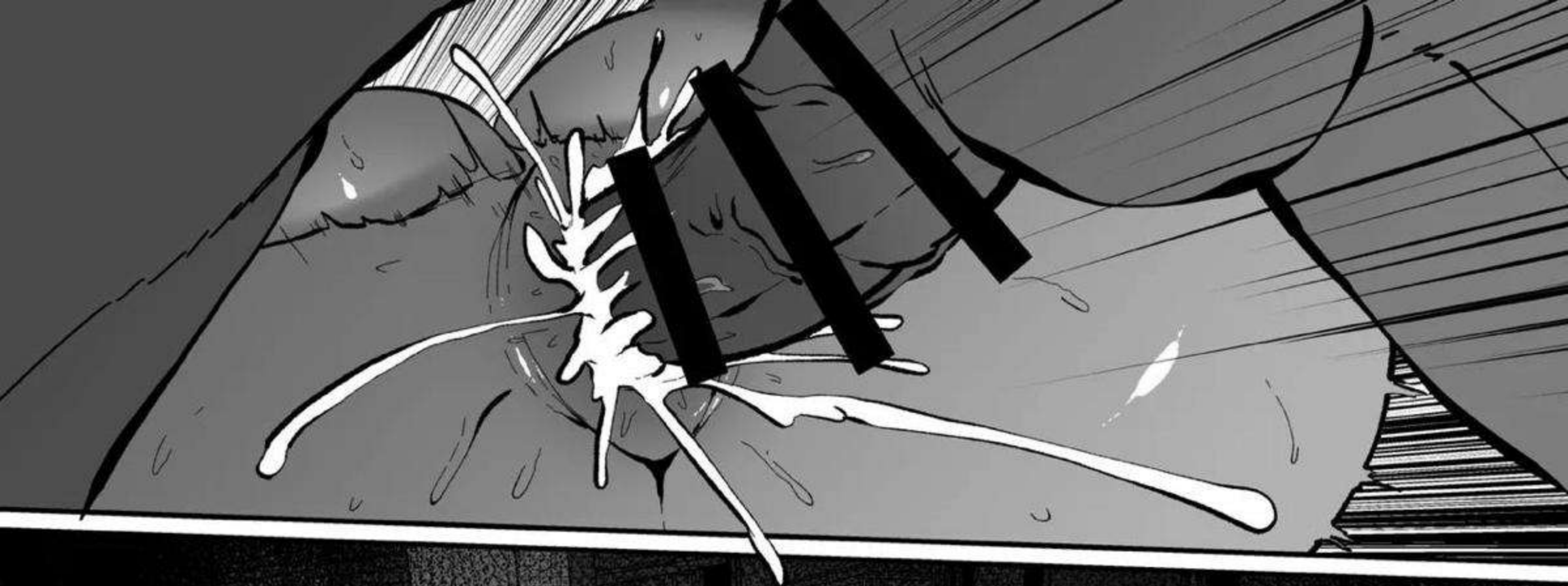
ほかの超人たちを頼っても
霊夢さん側だ
きつと同じことになる

必要とあれば
鬼もろとも『退治』する
それができる人だ

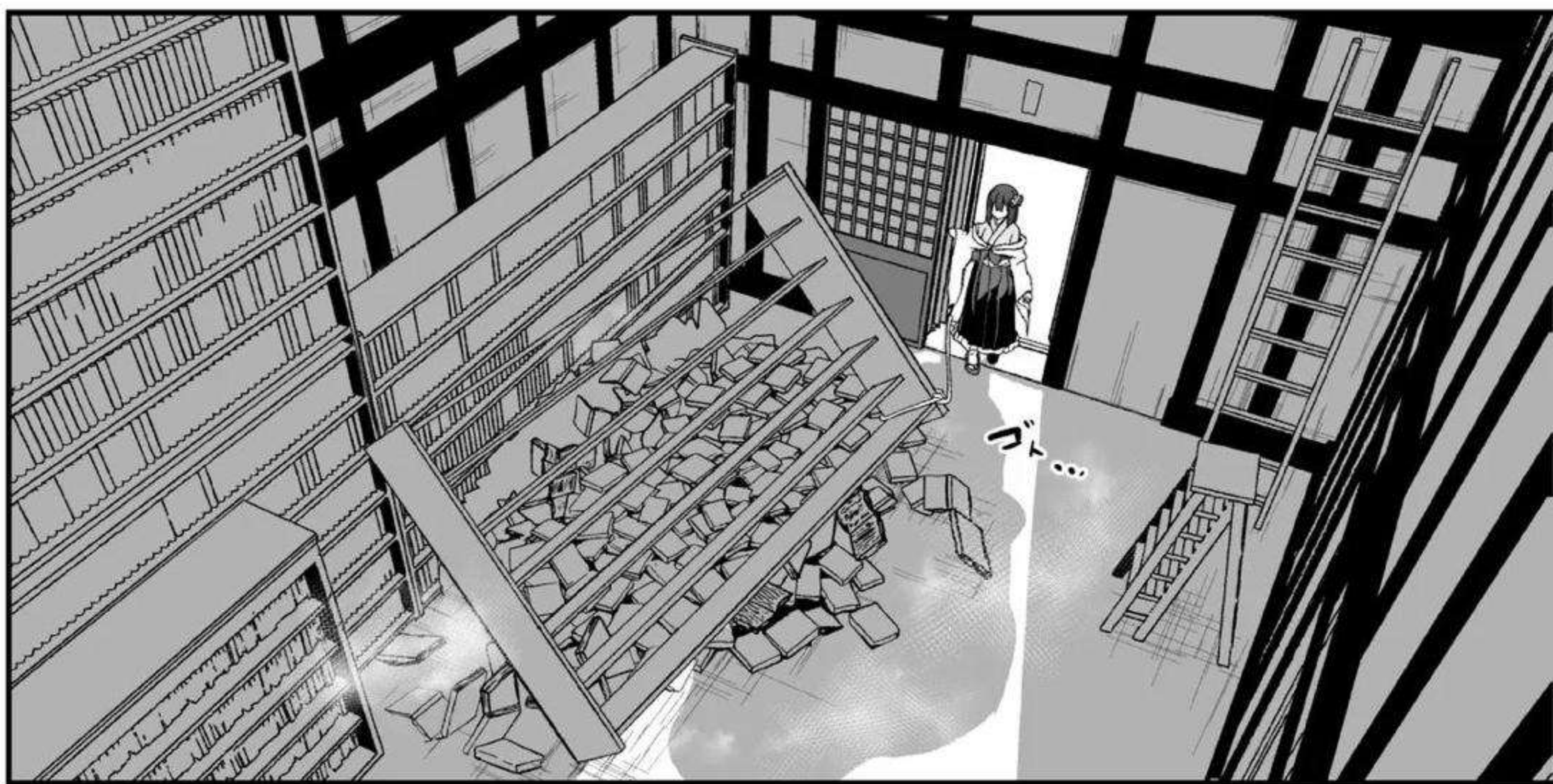
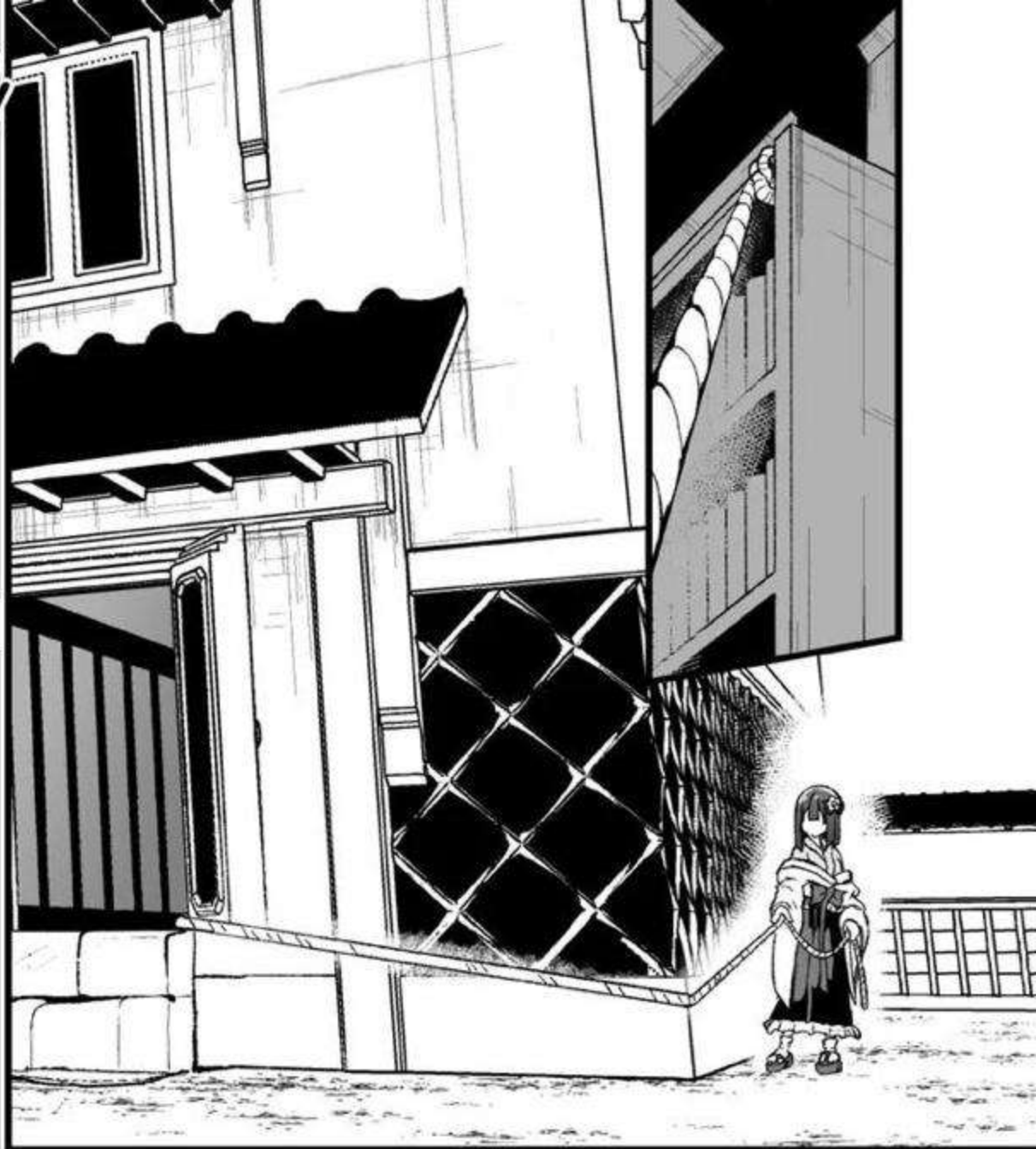


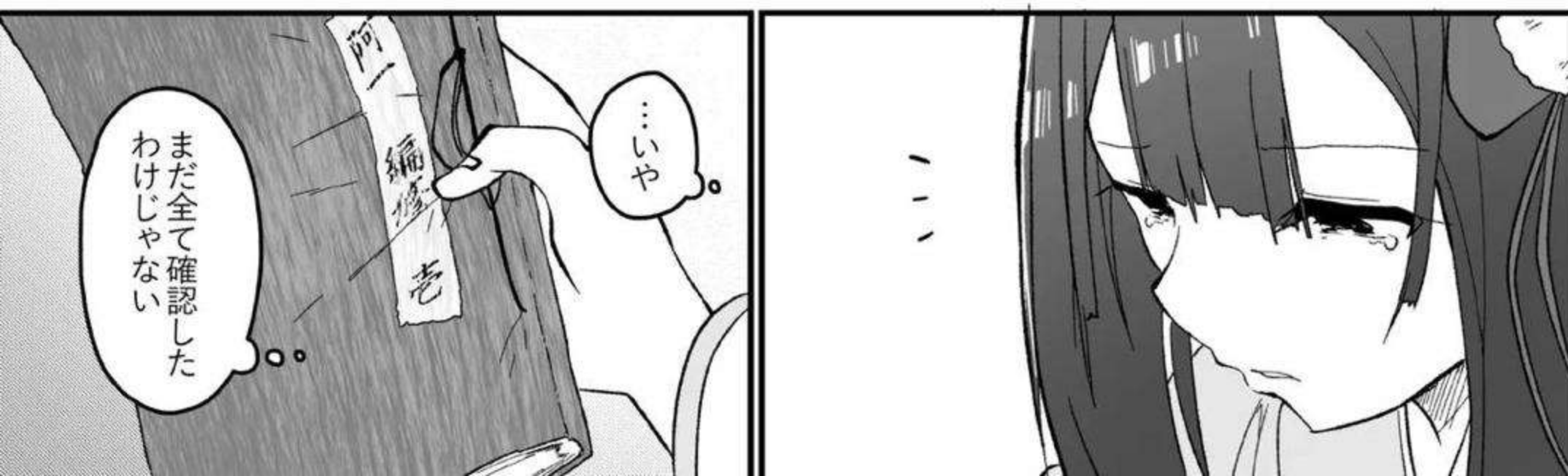


その稗田が許嫁と定めた平太も無視しないだろう



私一人でなんとかしなきゃ...





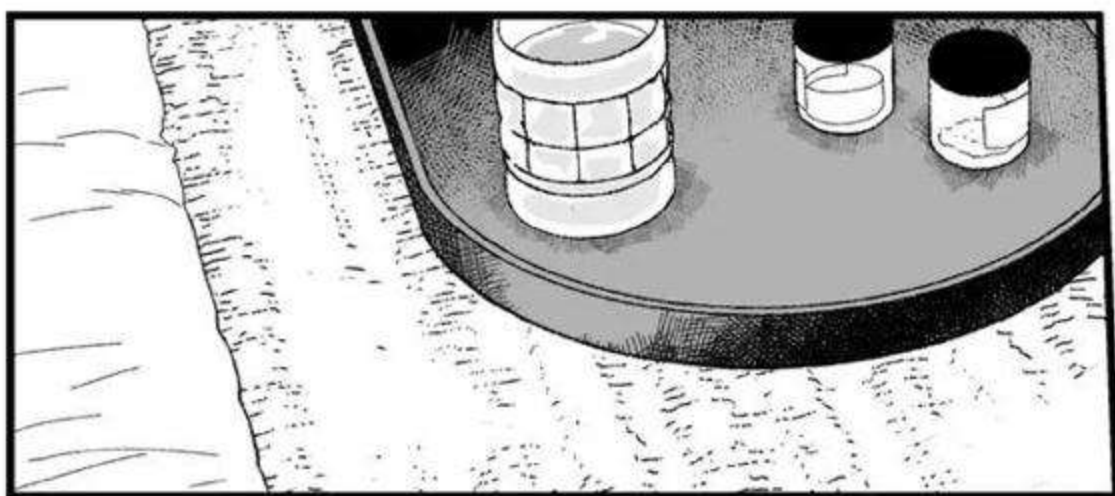


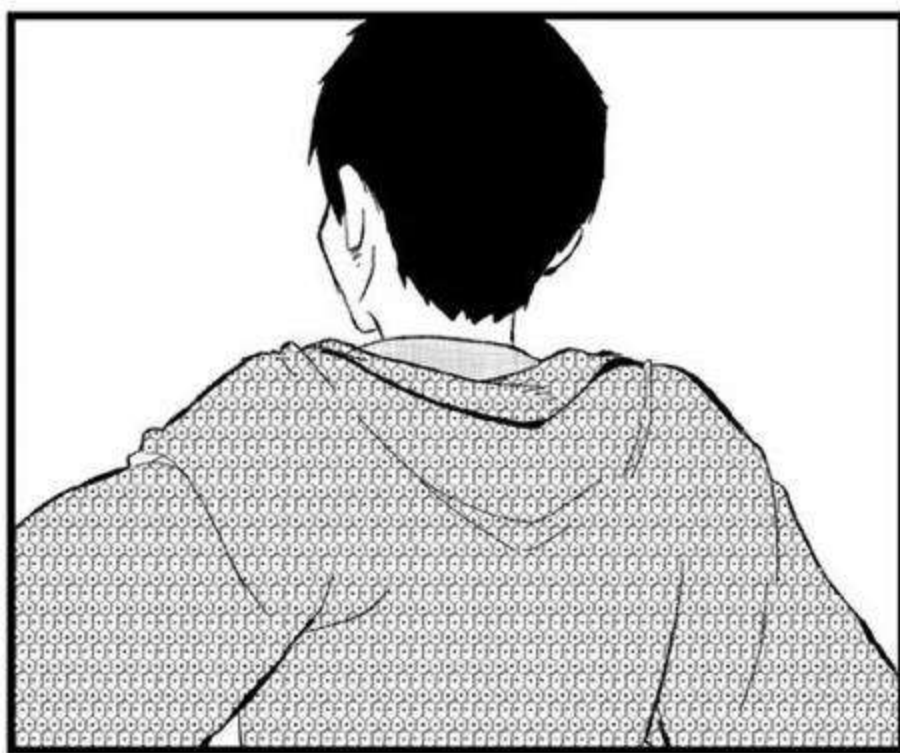


※漢字のアナグラム











はは！

やっちゃまったな
俺ら！

許嫁同士でデキ婚とか！

阿礼の子で
初めてじゃねえのか！

ははは！

…あは

こんな
後出しみたいな形で
言いたくなかったけどよっ

もう関係ねえよな！

な！

うんっ

うん！



結婚するぞ!

阿求!

そうか
孕んだか

儼に似た子だと
良いのう
阿求

なみなみ種を注いで
やったからな♡



その小さい脳みそじゃ
そんなことも
分らないの…っ

人間が鬼で
妊娠できる
わけがないっ

この子は
平太の子よ

誰があんたの…っ



かように賢い女ほど
割り切って愉しむものよ

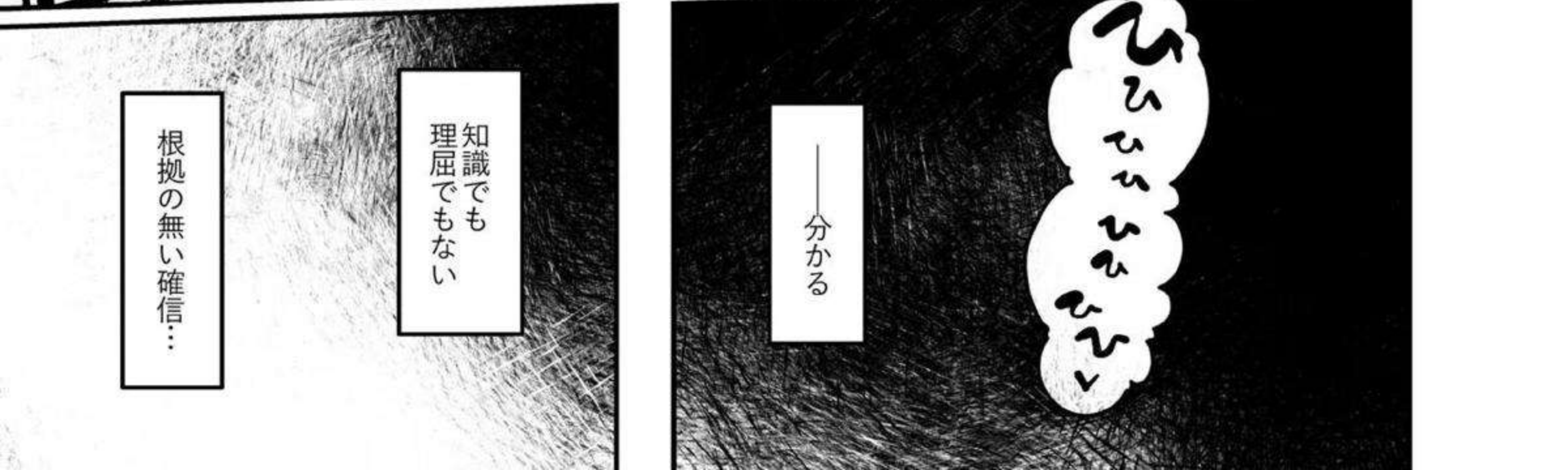
だろうな

だが
こんな話を
聞いたことはないか









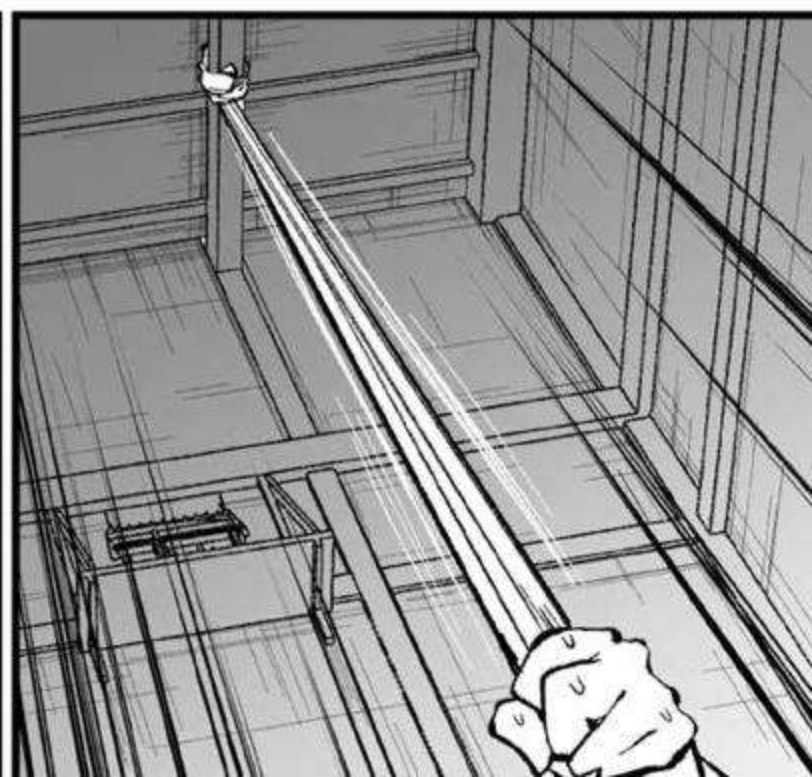
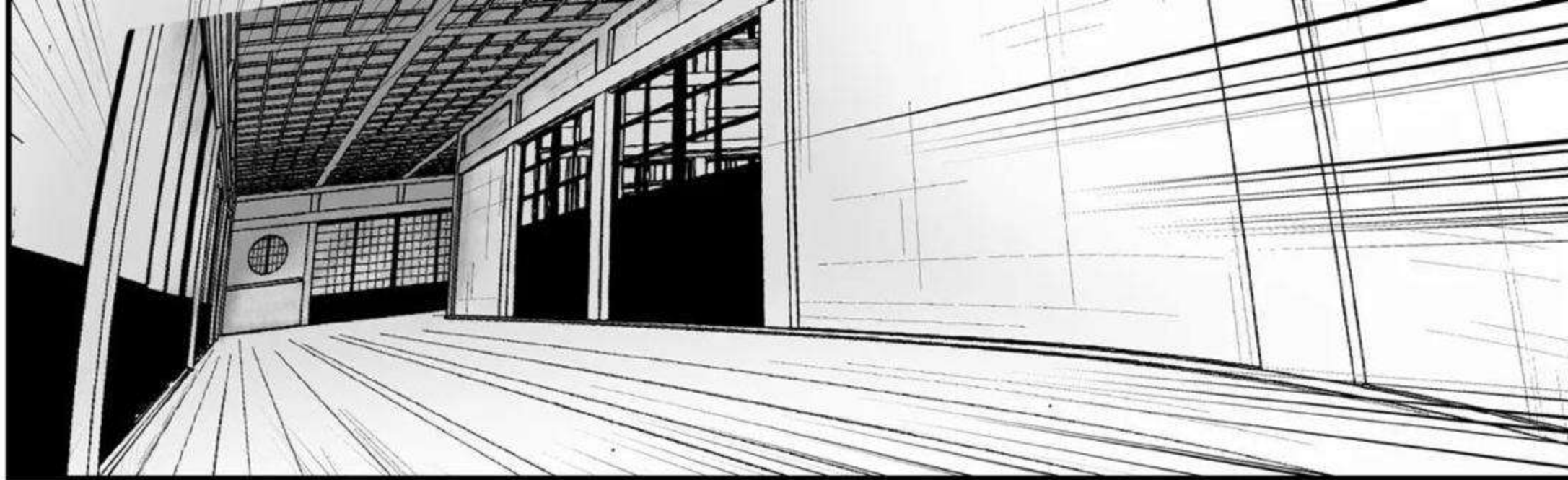






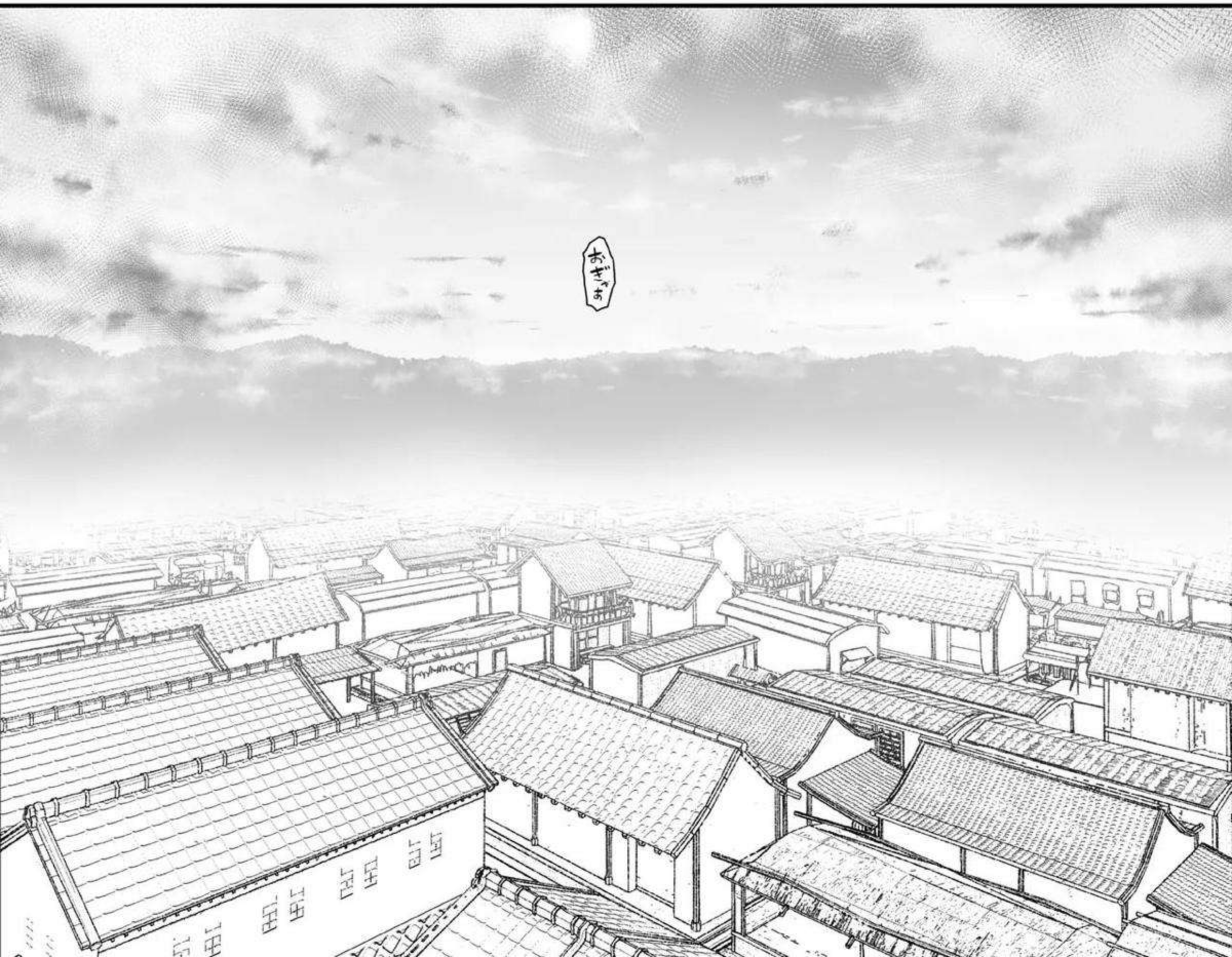
たとえ角を持って
生まれたとしても

私は…

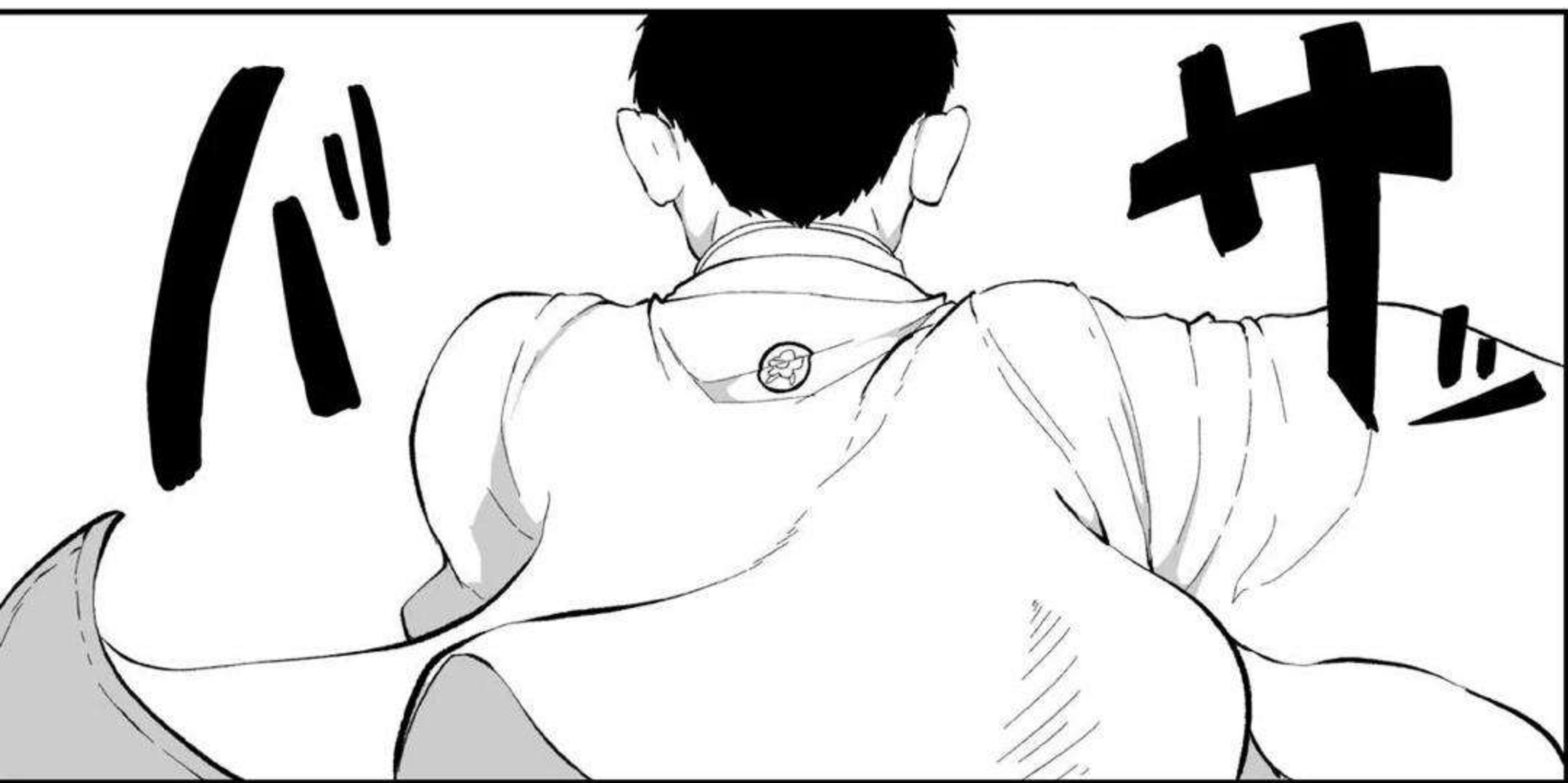
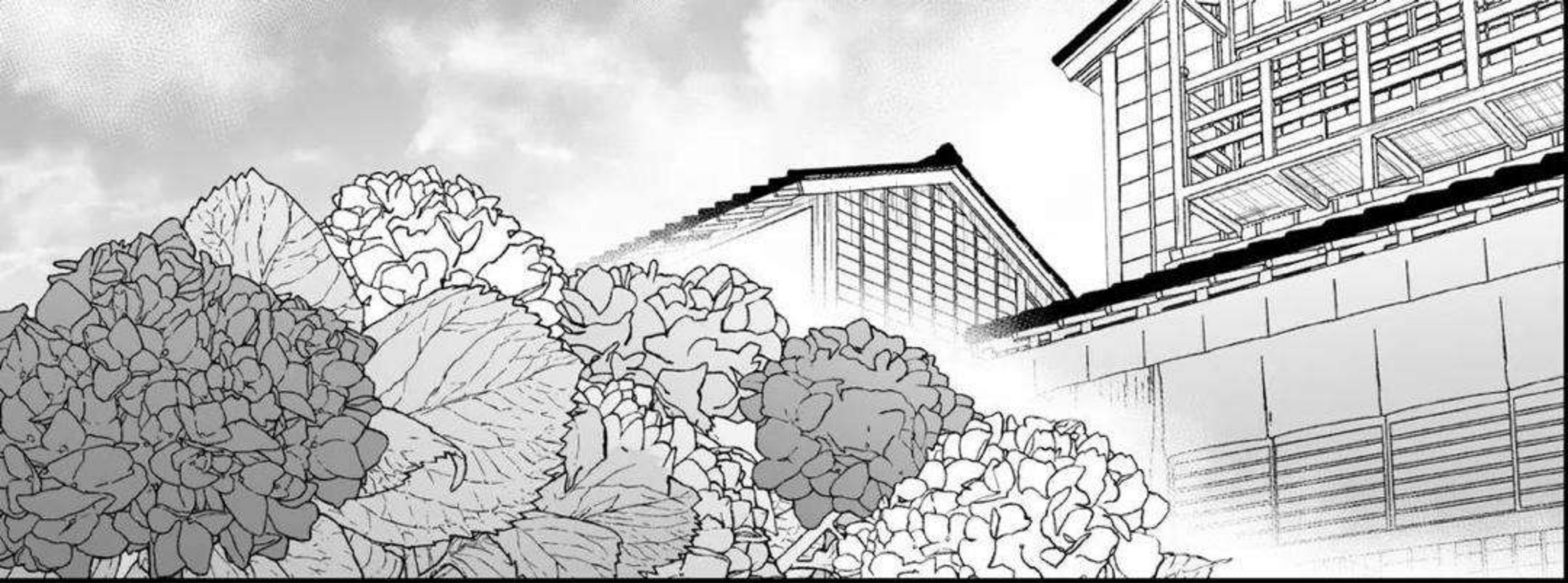






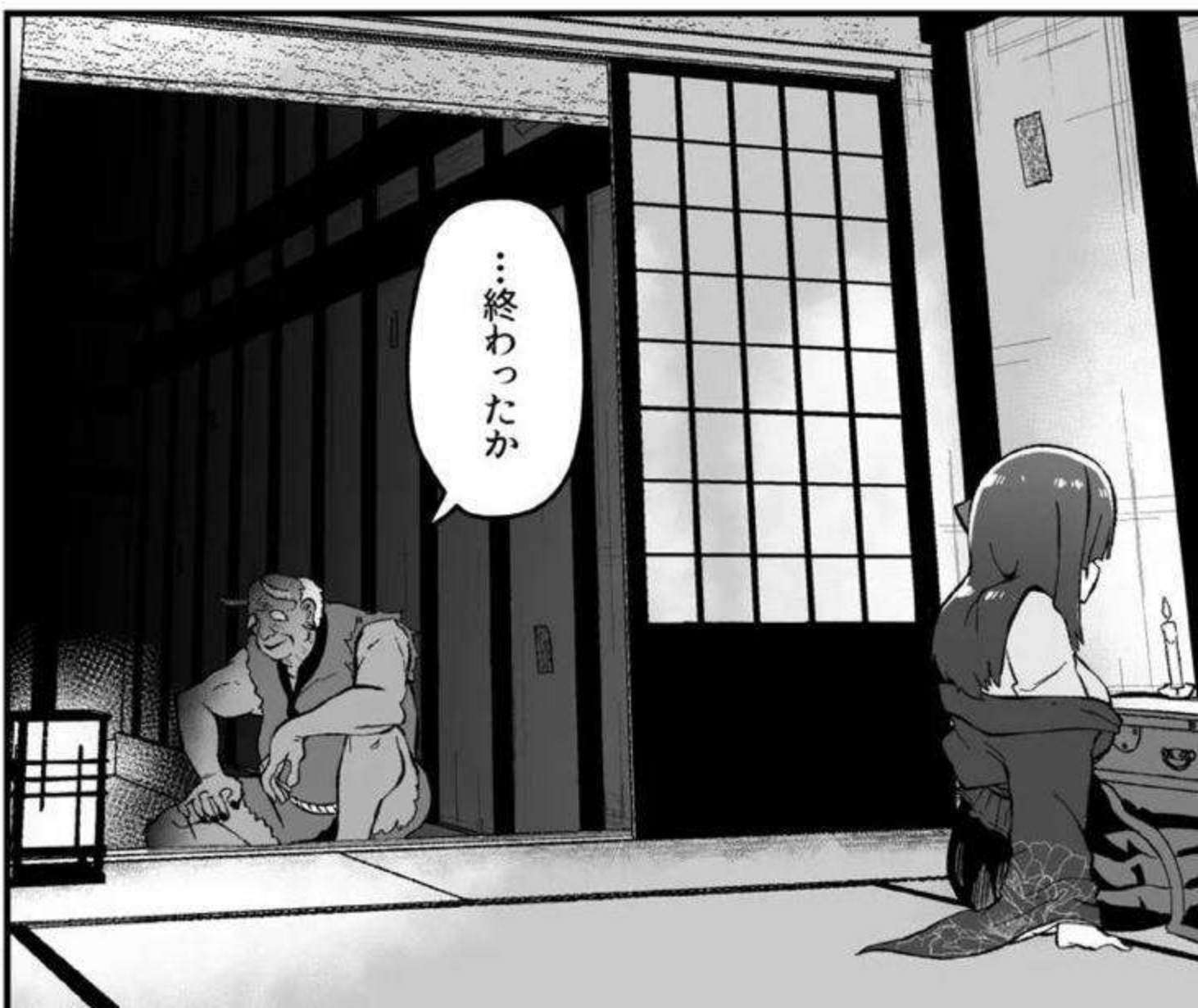


神隨











これで心置きなく
転生の準備に入れる



平太も立派になって
稗田を継いでくれた



今まで通りな

お前がまた
生まれて来られるよう
稗田に付く蟲は
払っておいてやる



案ずるな

グ
グ
グ



お前を迎えるためよ



守り神気取り?

反吐が出るわ

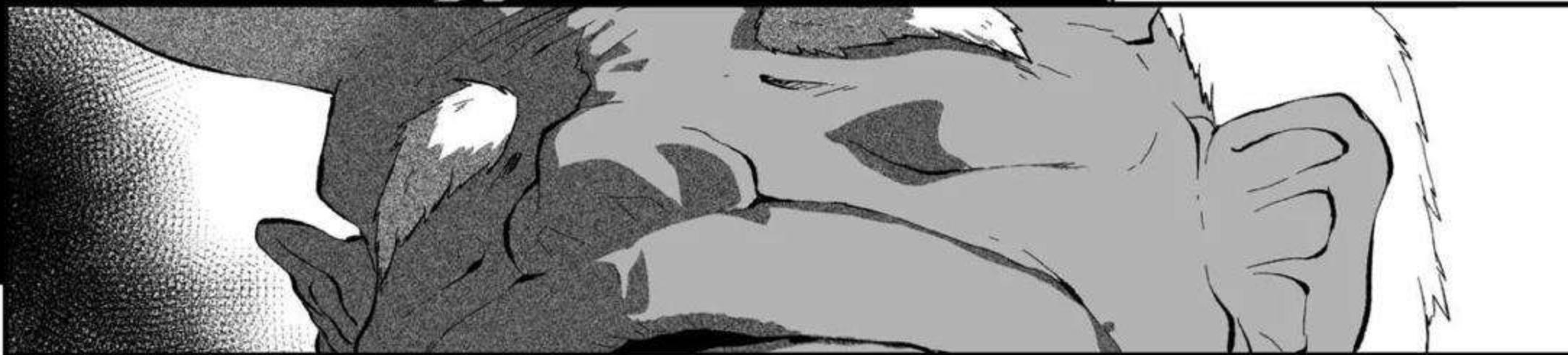


あなた
阿礼の私に転生の術を
吹き込んだわね



そう

目的は
あくまで私



あちら側に精通してる
何かが居ない限りは…



記憶力と
頭が良いだけの

まして結界符も
ろくに作れない人間…

周りにいる人たちも
その程度の霊力すら
持てないのに

たった一度の人生で
地獄を経由する転生術なんて
編み出せるはずがない



ほう

そこまで漕ぎつけたのは
お前が初めてだ

阿求

これは
これは

なかなか
どうして

お前阿一の本を
読み解いたのか

どうやった?



…そうか
貸本屋の娘!

文字を理解する能力

意志を以て
記号を連ねれば
暗号ももはや
言語ということか



阿一の記録本は
単なる日記だった

それと何かを探すように
目撃のあった妖怪の
人相書きが添えてあっただけ

ふたりめ
阿爾はその流れを汲んで
村の出来事と妖怪の記録を
書に留め始めた

そこが
幻想郷縁記の始まり



私が知っている
因果が逆よ

幻想郷縁記のためでなく
生き返った後から
縁記が始まってる

これが事実なら
私は自分を騙し
何かを隠し続けている
ことになる



阿礼が転生したのは
もっと別の理由…

あなたは
知っているはず

わざわざ
阿一の本を暗号化して
残した意図

そんなことせずとも
不都合な内容なら
焼き捨てれば良かったはず



この転生は
私が望んだことなの？

この狂気の是非を
問えるように――

それをしなかったのは
いつか私が

何回目かの
私が

二重暗号に気付けるほど
冷静でいられている私に託すため





千年以上も昔のことなぞ
とうに霞の向こう側

いま儼に在るのは
阿礼の微かな影を追
お前を娶り続けること

ただそれだけよ



同じ輪廻に
触れとるせい
か一向に死ぬ
気配も無い



私を襲う為にも
蔵と札が必要

音無しの
座敷牢…

危険を感じた私が
真っ先にここに逃げ込むのが
あなたにとって最も都合



…いいわ



知らぬ存ぜぬでも
同じこと



この蔵も壊して
札を燃やしてしまえば
あるいは

それと…
あなたが残す
あの置手紙

私の名を騙った
次の私への手紙

この蔵が一番安全という
刷り込み

あれも阻止できれば
少なくともあなたからの
干渉は止められるかも
しれないということね



二人

三人

出来るだけ多く
残しておかないと

稗田の血を

絶やさないために…



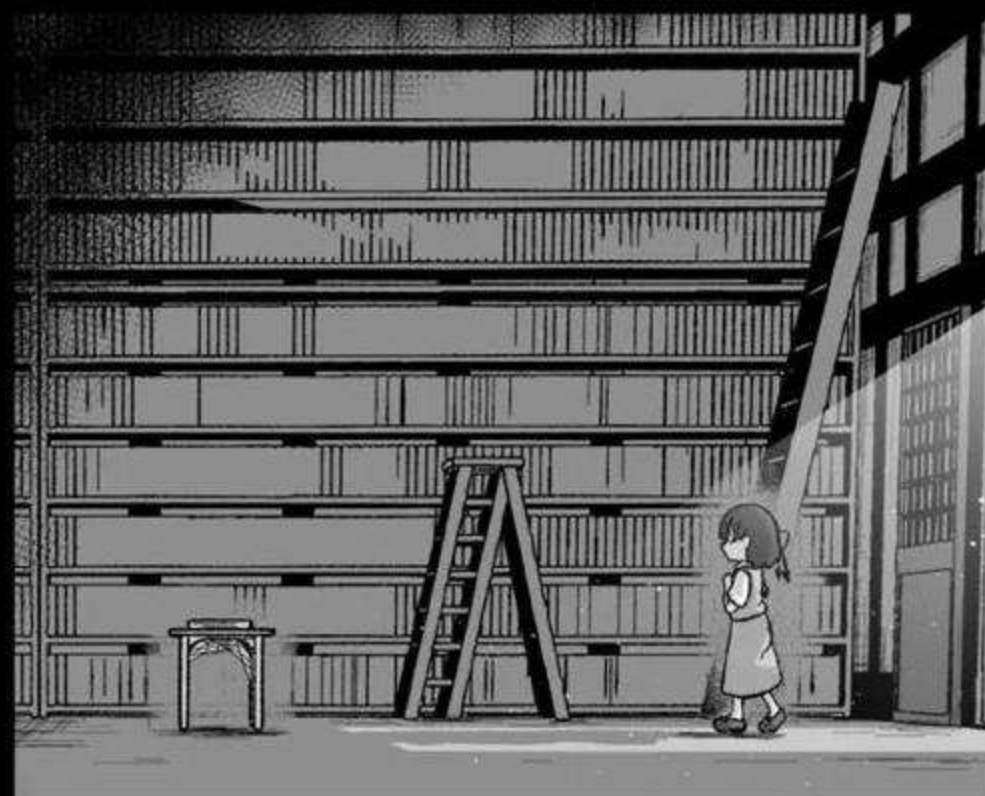
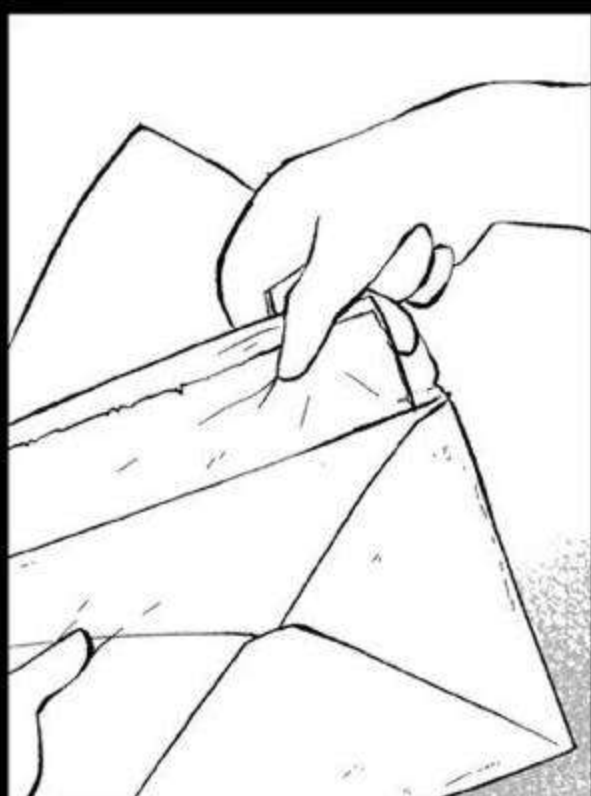
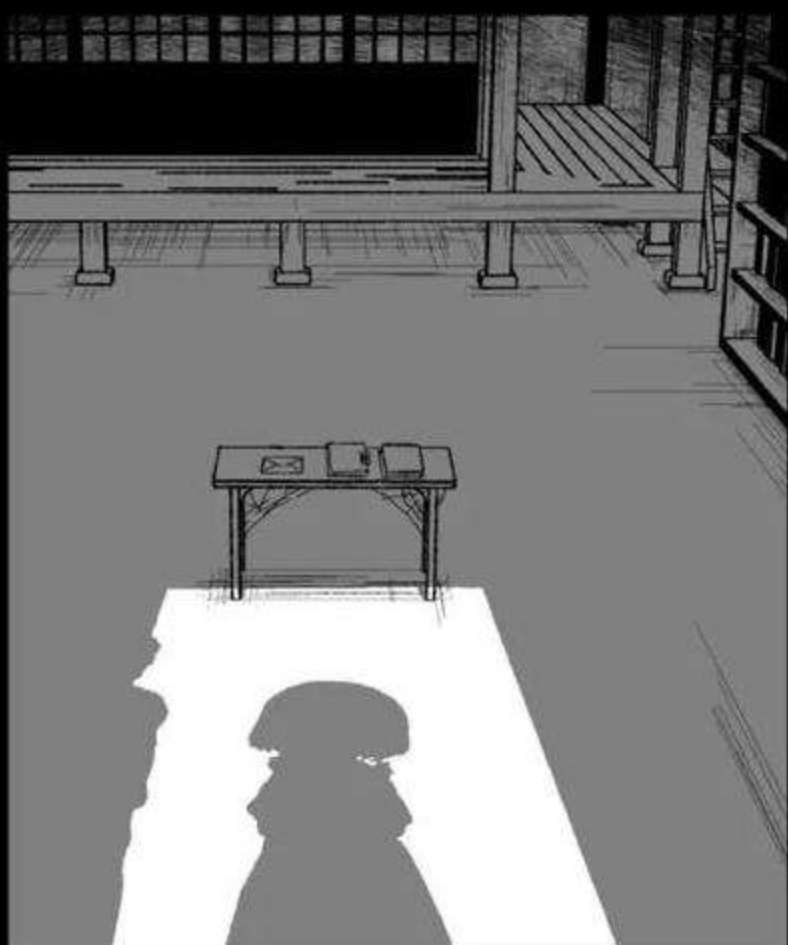
分かるでしょ…

ア・ナ・タ・



ガッ...





10回目の私へ

まずは転生おめでとう。
生まれ変わった気分はどうかしら。

漢字は読める？
早めにチェックしておいて。
一度記憶すれば忘れない私ならすぐに呑み込めるから。

私の使命はここ幻想郷の歴史や妖怪の仔細を知り綴ること。
同封の本は、まあ、マニュアルみたいなものね。
阿礼の子として必要なことが全部書いてある。
読んだら必ずこの手紙と一緒に燃やしておくこと。

あなたがこの手紙を見つけた蔵は
とても重要な場所。

転生を始めた私、阿礼から使っている大事な書室で、
同時に幻想郷で一番安全な場所。

当時の巫女に作らせた妖怪除けの札で結界が張られてるけど、
老朽化が進んでるから建て直して壁を厚くする事をお勧めするわ。

最後に。

あなたは自分の選んだ道に悲観するかもしれない。
阿礼の私が始めたことで厭世的になるかもしれない。
私だってそうだった。
けれど思い返せば、そうした諦観も必要な
通過儀礼のようなものだったと思う。

少なくとも今の私は満たされている。

断言してあげる。
悲しむことはないわ。
その先に雨雲は無いのだから。

それでは、素敵な貴方に安全な幻想郷ライフを。

9回目の貴方 稗田阿求

これで気兼ねなく阿礼に戻る

終





資料集

②

稗田阿求
 一度見たものを忘れない程度の能力
 単に記憶力が良い
 見るに限った話じゃない
 体験したものを忘却することなく記録・記憶し、さらに
 その記憶を引き出す事の出来る「瞬間記憶能力」である
 (ピクシブ百科事典)
 妖怪絵巻とか幻想郷縁起とか小説とか書いてる
 アガサクリスQ
 稗田の屋敷は仰々しい

何回も転生(生まれ直し)してる
 9回目なので阿求

原作で「10年ちょっとしか生きてない」発言
 →何年か経った後のストーリーになる
 結婚して子供が産めるぐらいの年齢
 =成人してるから身体も成長してる
 爆とは言わない
 巨ぐらいでひとつ許してください

勘違い

- ・前世の記憶も全部継承してる
 →覚えていられるのは幻想郷縁起の一部
 他はほとんど忘れるので
 書物に残して後から知ってる
- ・自分の子供に転生してる
 →生きてるうちに数年
 転生の準備をして
 死んでからおおよそ100年間
 地獄で仕事をしてから転生
 玄孫ぐらいに転生?
- ・普通に生きる
 →転生すると30年ほどで
 寿命がくる
 準備とかしてると
 まともな人間生活は
 送れない

幻想郷縁起

幻想郷のあらゆることをまとめる
 一代につき一冊新刊が出る
 阿求が転生の準備をするまでが載る予定

稗田阿礼 0

- | | | |
|----|---|-------------|
| 阿一 | 1 | |
| 阿爾 | 2 | 転生も幻想郷縁起も |
| 阿未 | 3 | 自分の意志で始めた |
| 阿余 | 4 | |
| 阿悟 | 5 | 意外と力持ち(鈴奈庵) |
| 阿夢 | 6 | |
| 阿七 | 7 | 妖怪とも交流があって |
| 阿弥 | 8 | 顔が広い |
| 阿求 | 9 | |

稗田は人里の中でも
 有力な家のひとつ



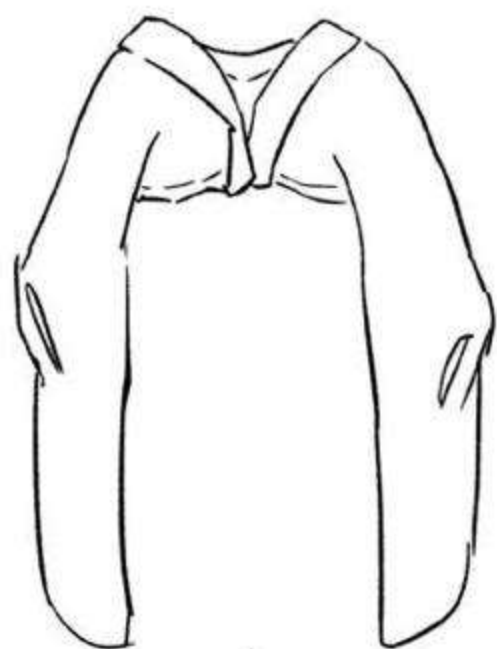
10-70

50-70

10

70
100

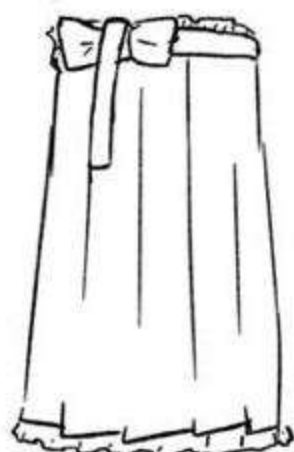
70



+



+



和風が主役

と、その

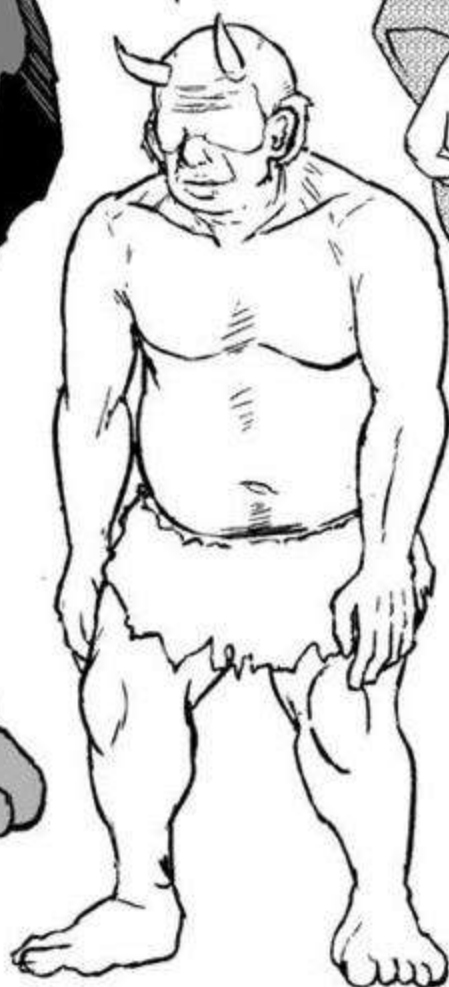
厚



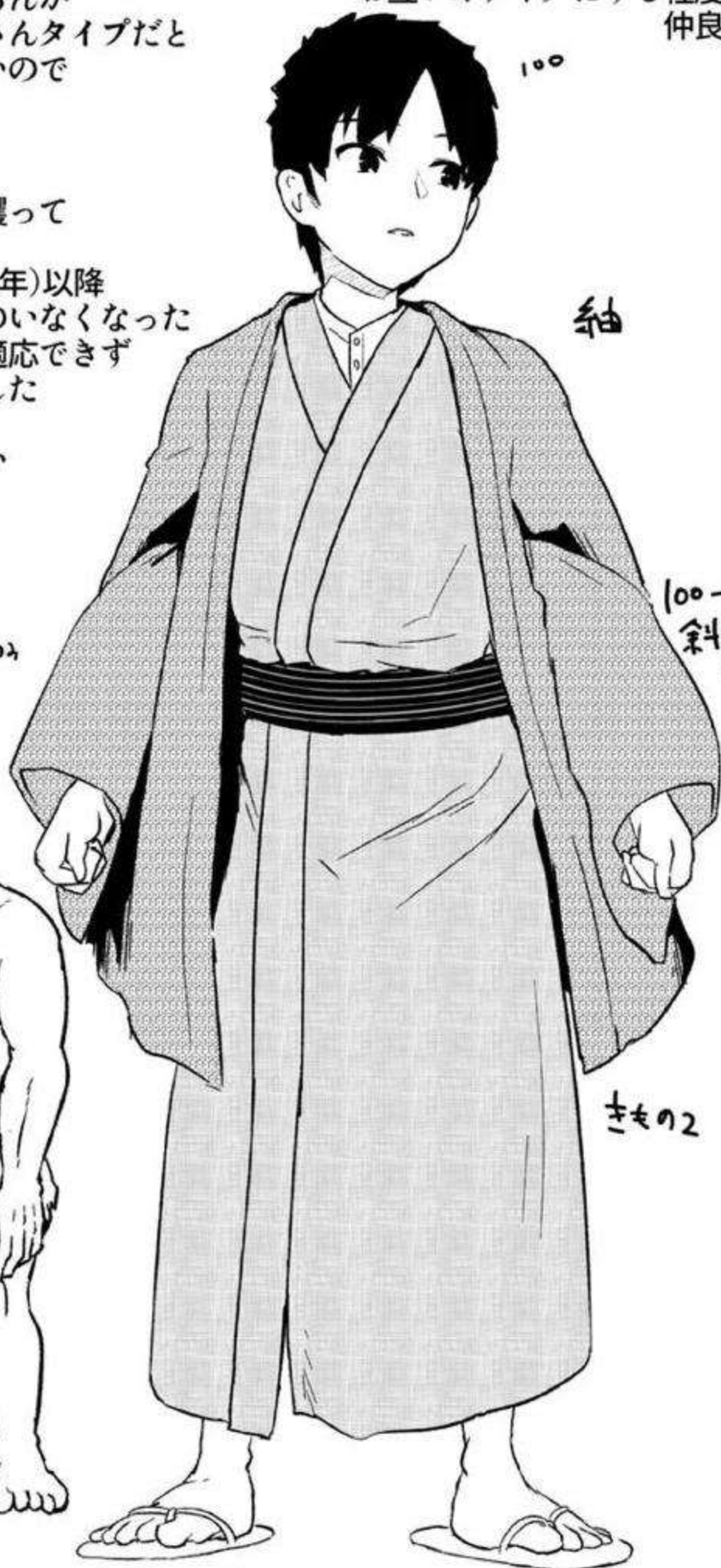


鬼
かなりの長生き
鬼の寿命は分らんが
ただの汚いおっさんタイプだと
年相応に見えないので
白髪白角で

wiki
妖怪の山で人を攫って
喰ってた
博麗大結界(1884年)以降
退治しにくる者のなくなった
退屈な幻想郷に適応できず
地獄などに移住した
角や牙を持ち
怪力で姿勢が悪い



平太(仮)
阿求の幼馴染で許嫁
お互いオナネタにする程度に
仲良し



紬

きもの2











